

リコーグループの環境保全活動の歩み

■ 1976年～2004年3月

	リコーグループの活動		活動に対する社会からの評価		世の中の動き
1976年	環境推進室設立			1971年	環境庁設置/ラムサール条約採択
1990年12月	環境対策室設立			1977年	国連砂漠化防止会議開催/UNEP会議開催
1992年 2月 3月	リコー環境綱領を制定 複写機「FT5570」がブルーエンジェルマーク(初版)を取得			1987年	モントリオール議定書採択
1993年 3月	リコー、オゾン層破壊物質(特定フロン、特定ハロン、四塩化炭素など)の全廃を達成	1993年 5月	リコーUKプロダクツの複写機感光体ドラムリサイクル技術が「英国女王賞(Queen's Award)」受賞	1990年	ロンドン会議(フロンと代替フロンの段階的廃止を決定)
	5月 リサイクル製品設計基本方針を公表、リサイクル対応設計レベル1施行	9月	リコーUKプロダクツの消費電力削減活動が「Business Energy Award 最優秀賞」受賞	1991年	再生資源利用促進法公布
	5月 プラスチック部品への材料名表示を開始			1992年	環境と開発に関する国連会議(地球サミット)開催
	12月 リコーグループ、オゾン層破壊物質(特定フロン、特定ハロン、四塩化炭素など)の全廃を達成			1993年	省エネルギー法改正
1994年 8月 11月	コミットサークルの概念が完成 プラスチック部品に材料名およびグレード表示を開始	1994年 5月	リコーUKプロダクツの複写機感光体ドラムリサイクル技術が、「ヨーロッパ産業環境賞」受賞		
1995年 2月 10月 12月	第1回リコー全社環境大会を開催 エネルギースター対応製品を公表 リコー御殿場工場がISO14001認証を取得(日本の認証機関による第1号の認証)	1995年 3月	リコーの環境製品アセスメントとリサイクル対応設計推進事業が「再資源化開発事業など表彰 通産大臣賞」受賞	1995年	第1回気候変動枠組条約締約国会議開催/容器包装リサイクル法施行/国際エネルギースタープログラム施行
1996年 7月	リコーUKプロダクツがBS7750/ISO14001の認証を取得	1997年 3月	米国リコーコーポレーションが「エネルギースター複写機部門賞」受賞	1996年	ISO環境マネジメントシステム環境監査規格制定/米国EPA国際エネルギースター賞制定
1997年 3月	79種類の管理化学物質を設定	1998年12月	日本経済新聞社「第2回企業の環境経営度調査」で、リコーが第1位	1997年	第3回気候変動枠組条約締約国会議(COP3、京都会議)開催 京都議定書採択
1998年 4月 5月 10月	リコーリサイクル事業部が発足 リコーグループグリーン調達ガイドラインを発行 リコー福井事業所が再資源化率100%(ごみゼロ)を達成	1999年11月	リコーが、国際エネルギー機関(IEA)主催のDSMプログラム第1回未来複写機部門で「省エネ技術賞」受賞	1998年	エコ・パートナーシップ東京会議開催/地球温暖化対策推進法制定
1999年 1月 9月	1998年版リコーグループ環境報告書を発行 リコー、初めての環境会計を公表	2000年 3月	米国リコーコーポレーションが、エネルギースタープログラムで「総合大賞」を含む3賞を同時受賞(エネルギースター賞は5年連続受賞)	1999年	改正省エネルギー法施行/PRTR法制定
2000年 1月 2月	リコー、複写機28機種でエコマークを取得 リコーのデジタル複合機「imagio MF6550」が、タイプⅢ環境宣言の認証を取得(認証機関はBVQIスウェーデン)	6月	リコー、「第10回朝日新聞文化財団企業の社会貢献度賞 大賞」受賞	2000年	国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律公布/循環型社会形成推進基本法制定/廃棄物処理法改正/資源有効利用促進法制定/グリーン購入法制定
	3月 第1回 グローバルリサイクル会議を開催	12月	リコー、日本経済新聞社「第4回環境経営度調査」で3年連続第1位	2001年	環境省発足/第1回21世紀「環の国」づくり会議開催/特定家庭用機器再商品化法、(家電リサイクル法)施行/国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律全面施行
2001年 7月	リコー、e-mission55(イーミッション55)に参加を表明	2001年 7月	リコーは、米国イノベスト・ストラテジック・パブリック・アドバイザーズ社が実施した環境格付けで、写真・事務機器部門での最高スコア「AAA」と評価され、世界第1位		
	12月 環境調和型デジタル複合機imagio MF6550RCをレンタル専用機として商品化	12月	リコーが、英国フィナンシャルタイムズ紙調査のCEOが選ぶ環境保全に優れた会社部門で世界第7位	2002年	持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)開催
2002年 1月 3月	第1回 リコーグリーン調達大会を開催 リコーグループ世界主要生産拠点が、再資源化率100%(ごみゼロ)を達成	2002年 5月	リコーが、ドイツのエコム社による「企業の社会的責任」格付においてOA機器・家電部門で世界第1位	2003年	WEEE(EU廃電気電子機器リサイクル指令)発効/RoHS(EU電気電子機器危険物質使用制限指令)発効
	4月 リコーが、国連「グローバルコンパクト」に参加表明	2003年 4月	リコーが、「第12回地球環境大賞 大賞」受賞	2004年	国連気候変動枠組条約第10回締約国会議(COP10)
	9月 リコーが、(社)産業環境管理協会(JEMAI)が運営するタイプⅢ環境ラベル「エコリーフ」のシステム認定取得	5月	リコーが、「2003年WECゴールドメダル」受賞		
	11月 リコー大森事業所「騒音試験所」が、米国NISTからISO/IEC17025の認定取得	11月	リコーが、「第6回グリーン購入大賞 経済産業大臣賞」受賞	2005年	京都議定書発効(2月16日)
	12月 リコーグループ、第1回環境経営活動賞 表彰を実施	2004年 2月	imagio Neo 752/602シリーズが、「第14回省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞」受賞		
2003年 1月 6月	リコーCSR室を開設 リコーが、紙製品に関する環境規定を制定				
2004年 1月	リコーが、「リコーグループ 行動規範」「リコーグループ CSR憲章」を施行				

※ 詳細はホームページをご覧ください。(http://www.ricoh.co.jp/ecology/history/index.html)

■ 2004年度 (2004年4月～2005年3月)

リコーグループの活動		活動に対する社会からの評価	
2004年 4月	「グリーン調達基準改定及び化学物質管理システム(CMS)認証制度 説明会」を開催	2004年 4月	リコーグループ環境経営報告書2003が「第7回環境報告書・サステナビリティ報告書賞 継続優秀賞」受賞(3年連続)
4月	リコー東北グループ全販社で「ごみゼロレベルⅡ」達成	4月	2003年度リコー福井事業所環境報告書が「第7回環境報告書・サステナビリティ報告書賞 サイトレポート賞」受賞(4年連続)
5月	リコーとFoE Japan、ロシア極東地域で実施する「リコー・FoE Japan北限のトラ生息域タイガ保全プロジェクト」で合意	6月	リコーが、『ニューズウィーク誌』世界企業ランキング Global 500で世界19位にランクイン(日本企業で第2位)
6月	リコーとJQA、製品含有化学物質情報管理認証制度のパイロットプログラムを共同で実施	7月	リコーが、日経ビジネス誌「CSRランキングBEST100」で総合11位
6月	リコーグループサステナビリティ・レポート2004を初の三部作(環境経営報告書、社会的責任経営報告書、アニュアル・レポート)で発行	10月	東北リコーが、平成16年度緑化優良工場等表彰の「東北経済産業局長表彰」受賞
7月	第3回リコーグループ親子自然教室開催	10月	リコーの「使用済み複写機の再生事業」が、平成16年度資源循環技術・システム表彰の「経済産業省産業技術環境局長賞」受賞
8月	第15回環境ボランティアリーダー全社会議開催	10月	岩手リコーが、リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰の「リサイクル推進協議会会長賞」受賞
8月	リコーエレメックス東京事務所がごみゼロ達成	10月	米国リコーエレクトロニクスが、カリフォルニア州廃棄物管理統括委員会のWaste Reduction Awards Program(WRAP)で「year of the Award」受賞
9月	リコーエレメックス技術センター(愛知県)がごみゼロ達成	11月	米国リコーコーポレーションが、「Green Contractor Award 2004」受賞
9月	第3回リコー森の教室 開催、森林保全リーダー計36名に	12月	リコーが、日本経済新聞社「第8回環境経営度調査」で通算4度目の第1位(製造業部門)
9月	リコー、デジタルカメラで「エコリーフ環境ラベルシステム認定」取得	12月	リコーグループサステナビリティレポート2004(環境経営報告書、社会的責任経営報告書、アニュアル・レポート)が、第8回環境コミュニケーション大賞「持続可能性報告優秀賞」、「環境報告優秀賞」「環境報告マイスター賞」受賞
9月	省エネ技術「HYBRID QSU」搭載、高速機デジタル融合機で世界初の省エネモードからの復帰時間10秒を達成したimagio Neo 602 ec/752ecを発売	12月	2004年度リコー福井事業所環境報告書が、第8回環境コミュニケーション大賞の「環境報告優秀賞」受賞
10月	「リコーグループ環境綱領」を改定		
10月	リコー大森事業所のVOC試験所が、「材料研究および材料試験に関するドイツ連邦研究所」(略称:BAM)から、メーカーとして世界初の認証を取得		
11月	第17回リコーグループ自然教室 開催、環境ボランティアリーダー計277名に		
11月	リコーアジアパシフィックが、タイ・バンコクで開かれたIUCN(国際自然保護連合)総会で、リコーグループの環境社会貢献活動について発表		
12月	エコプロダクツ2004に出展		
12月	環境調和型デジタル融合機 imagio Neo 350RC/450RCシリーズを発売		
2005年 1月	第16回環境ボランティアリーダー全社会議開催	2005年 1月	リコーが、The World Economic Forum(世界経済フォーラム:通称ダボス会議)で「持続可能なグローバル企業トップ100社」に選定
2月	第11回リコーグループ環境経営大会開催	2月	リコーが、ドイツのエコム社による「社会的責任格付」で世界第1位(IT/コンピュータ、周辺機器、事務用電子機器部門)
2月	第4回リコー自然教室中級編開催	2月	リコー御殿場事業所が、省エネ事業所「経済産業大臣賞」(最高賞)受賞(電気部門)
2月	EUのRoHS指令に準拠し、環境影響化学物質を大幅に削減したデジタルカラー複合機imagio Neo C355/285シリーズを発売	3月	リコー福井事業所が、三重県の第3回日本環境経営大賞「環境経営優秀賞」受賞
		3月	リコーグループが、トーマツ審査評価機構の「環境格付」で最上位のAAAに評価
			環境後発事象
		4月	リコーが東洋経済新報社の「CSR報告書継続優秀大賞」で最優秀企業として表彰